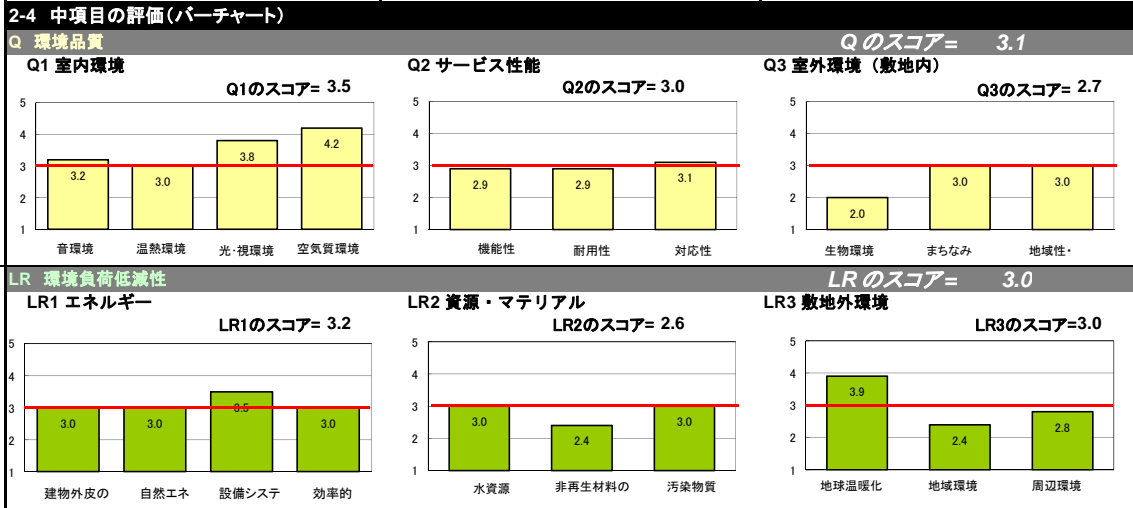
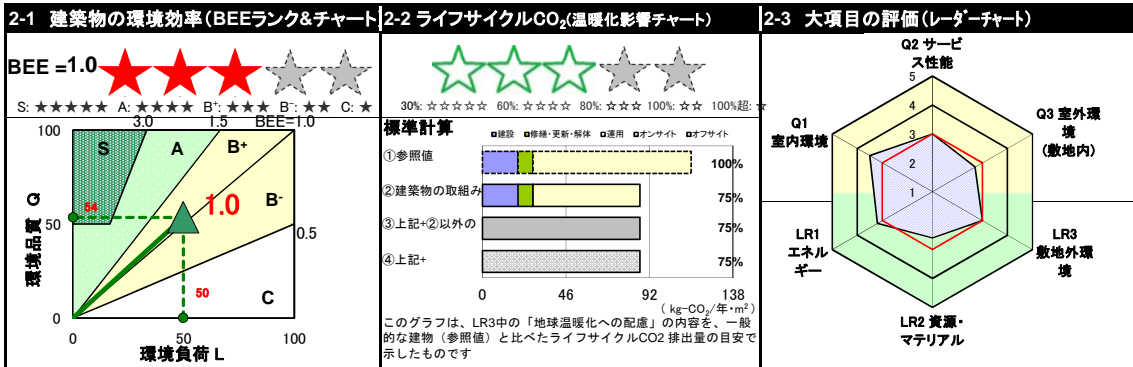


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)モアグレース小牧	階数	地上15F
建設地	愛知県小牧市小牧二丁目550番2、5	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、特定都市河	平均居住人員	246 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年8月30日
敷地面積	1,475 m ²	作成者	(株)澤田建築事務所
建築面積	427 m ²	確認日	2016年8月30日
延床面積	5,199 m ²	確認者	(株)澤田建築事務所



3 重点項目					
①地球温暖化への配慮 <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.9</div>	③敷地内の緑化 <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.0</div> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">9.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	9.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	9.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
②資源の有効活用 <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.6</div>	④地域材の活用 <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</div> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3-1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3-1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3-2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				-	0.15	3.2	1.00	3.2
1.2 遮音				-	-	3.0	0.50	
1.2.1 開口部遮音性能				-	-	3.5	0.50	
1.2.2 1 開口部遮音性能				-	-	3.0	0.30	
1.2.2 2 界壁遮音性能			Dr-50に相当している材料を使用	-	-	4.0	0.30	
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45に相当している材料を使用	-	-	4.0	0.20	
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1.1 室温				-	-	3.0	1.00	
2.1.2 1 外皮性能				-	-	-	-	
2.1.2 2 外皮性能				-	-	3.0	1.00	
2.1.2 3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				-	-	-	-	
2.3 空調方式				-	-	-	-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				3.0	0.25	4.0	1.00	3.8
3.1.1 昼光率				3.0	0.43	4.0	0.50	
3.1.1.1 1 昼光率				-	-	5.0	0.50	
3.1.1.1 2 方位別開口			開口部を大きくとっている	-	-	3.0	0.30	
3.1.1.1 3 昼光利用設備				3.0	1.00	3.0	0.20	
3.1.2 グレア対策				-	-	4.0	0.50	
3.1.2.1 1 昼光制御			カーテン+庇を設置	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.36	-	-	
4 空気環境								
4.1 発生源対策				-	0.25	4.2	1.00	4.2
4.1.1 1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を使用	-	-	5.0	0.63	
4.1.1 2 アスベスト対策				-	-	5.0	1.00	
4.2 換気				-	-	3.0	0.38	
4.2.1 1 換気量				-	-	3.0	0.33	
4.2.1 2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33	
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
4.3.1 1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
4.3.1 2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				2.7	0.40	3.0	1.00	2.9
1.1.1 1 広さ・収納性				3.0	0.40	3.0	0.60	
1.1.1 2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00	
1.1.1 3 バリアフリー計画		独自		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1.2.1 1 広さ感・景観				1.0	-	3.0	0.50	
1.2.1 2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
1.2.1 3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				2.0	0.30	-	-	
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50	-	-	
1.3.1 2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	
1.3.1 3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.9	0.31	-	-	2.9
2.1.1 1 耐震性				3.0	0.48	-	-	
2.1.1 2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	
2.1.1 3 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.33	-	-	
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	外壁にタイルを使用	5.0	0.23	-	-	
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.09	-	-	
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途2種類以上にB以上の材料を使用	5.0	0.15	-	-	
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-	
2.4 信頼性				2.2	0.19	-	-	
2.4.1 1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2.4.1 2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
2.4.1 3 電気設備		②		3.0	0.20	-	-	
2.4.1 4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
2.4.1 5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.1	0.29	3.1	1.00	3.1
3.1.1 1 階高のゆとり			階高2.91m確保	-	-	3.2	0.50	
3.1.1 2 空間の形状・自由さ				2.0	-	4.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	2.0	0.40	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	3.0	0.50	
3.3.1 1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	
3.3.1 2 給排水管の更新性		②	給排水管の点検口を設置	4.0	0.17	-	-	
3.3.1 3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
3.3.1 4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
3.3.1 5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	
3.3.1 6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.7
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
BEI値 ≤ 0.7								
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)				-	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)				3.5	1.00	-	-	3.5
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.40	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				2.4	0.63	-	-	2.4
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	-	3.0	0.24	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	-	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.20	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			2.0	0.05	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.22	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	-
1 消火剤				3.0	0.68	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
①	①	ライフサイクルCO2概算値:75%		3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				2.4	0.33	-	-	2.4
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			2.7	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音	独自			2.8	0.33	-	-	2.8
2 振動	独自			3.0	0.40	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制				3.0	0.33	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	0.40	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.30	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				2.3	0.20	-	-	-
				2.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

(仮称)モアグレース小牧

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:9.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)モアグレース小牧

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>敷地全体に高木・中木などの緑地を配置し 日影形成に努めるなど、居住者の住みよい敷地内環境に配慮した。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>床衝撃音に対して遮音性能が優れており、スラブ厚200mm以上確保した。 開口部を大きく取り、十分な採光を確保した。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>住戸の階高を2.91m確保し、空間にゆとりを持たせた。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>緑地による景観形成に配慮した計画とした。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>照明器具にLEDを採用し、制御方法などにも工夫した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水型便器を採用した。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>駐車・駐輪スペースを確保した。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>